

2023 年度 英語科 シラバス

教科	外国語科	科目	論理・表現 I	単位数	2	年次/コース	高1 特進コース
使用教科書	Vision Quest English Logic and Expression I Standard						
副教材など	教科書準拠ワークブック(啓林館)						

1. 学習の到達目標

<p>●科目について</p> <p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。</p> <p>●コンピテンシーについて</p> <p>本授業での個別最適な学びを通して、多様な他者との関わり、多様な相手を尊重することや、自ら主体的に問い作り続け、考え続ける力、周囲と深い関係を育む力を養う。また、英語と関わることで、将来それらをどのように活かすかについて考え、自分らしい生き方・在り方を考える力を養う。</p>
--

2. 学習方法について

<p>●授業中において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習や音読、英作文やスピーキングを通して、主に英文法の理解と運用能力の向上を目指します。 ・授業中はペアワークを毎回行います。他者とのコミュニケーションを通して英語力やコミュニケーション能力の向上を目指しましょう。 ・小テストでは自分のリフレクションシートを元に各自でまとめたものを実施します。計画的に勉強をし、英語学習のペースメーカーとして活用してください。 <p>●家庭学習において</p> <p>授業で学んだことを、自分の身の回りの事実や自分が考えていることと結びつけて、それらを英語で表現することを宿題とします。</p>

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	①：知識・技能	②：思考・判断・表現	③：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	場面・目的・状況等に応じて、日常的や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。知識・技能を活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話して・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
評	上に示す観点に基づいて学習のまとまりごとに A.B.C で評価し、学年末に 5 段階評価の評定にまとめる。学習に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。		

評価方法	【評価対象】 ・ペーパーテスト：定期テスト等 【評価結果】 A：十分満足できる状況 B：おおむね満足できる状況 C：努力を要する状況	【評価対象】 ・授業中の活動への取り組み状況 ・パフォーマンス：授業中の言語活動の取り組み状況、スピーチ課題 ・ノート・ワーク等の提出物 【評価結果】 A：十分満足できる状況 B：おおむね満足できる状況 C：努力を要する状況
	上に示す観点・評価方法に基づいて、各観点で評価し、学期末に当該学期の観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。また、学年末に年度を通しての観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。	

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			①	②	③		
1 学期	Lesson 1	文の種類	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 肯定文・否定文・さまざまな疑問文や命令文を適切に作り、それに応答することができる。 5つの文型と There is 構文の構造を理解し、単文を正確に作ることができる。 基本時制の概念をイメージとして把握し、伝えたいことを適切な時制・進行形で発話できる。 現在・過去・未来完了形の概念をイメージで把握し、現在形や過去形と区別できる。 助動詞それぞれの意味や用法を学び、適切に使い分けて話者の気持ちや判断を表すことができる。 	定期考査、授業での取り組み状況、提出物から評価 ※3学期は英検所持級やスコアが成績に算入。
	Lesson 2	文型と動詞	○	○	○		
	Lesson 3	時制	○	○	○		
	Lesson 4	完了形	○	○	○		
	Lesson 5	助動詞	○	○	○		
2 学期	Lesson 6	受動態	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 受動態のさまざまな文の作り方を学び、必要に応じて使うことができる。 不定詞のさまざまな用法を学び、意味上の S+V を含む文を作ることができる。 動名詞のさまざまな用法を学び、動名詞句を用いて多様な文を作ることができる。 名詞を修飾する用法、補語になる用法を使うことができ、分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現できる。 	
	Lesson 7	不定詞	○	○	○		
	Lesson 8	動名詞	○	○	○		
	Lesson 9	分詞	○	○	○		
3 学期	Lesson10	関係詞	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 関係詞を用いた複文を作り、語句を限定したり補足説明を加えたりできる。 複数のものを比較することで、物事の状態をわかりやすく伝えることができる。 仮定法を用いて事実と違うことや実際には起こり得ないことを述べるることができる。 	
	Lesson 11	比較	○	○	○		
	Lesson 12	仮定法	○	○	○		